

令和8年1月

市長の市政報告会

①防災特集（南海トラフ地震が起こったら）

阪南市

阪南市の防災・災害対策

"明日起きても最悪を避ける"ために、今日できる一歩

今日のゴール

家族で"やること1つ"を決めて帰る

阪 南 市

阪南市の防災

いのちを守る日頃の防災

なぜ防災が大切？

- ・ **南海トラフ巨大地震**など大きな災害の危険
- ・ 災害時、最初の数時間は"自分たち"が頼りです
- ・ **一人ひとりの行動**が**命を守るカギ**（**備えの差が、被害の差になる**）

阪南市の取り組み

- 1.知る ハザードマップの配布・周知・情報発信
- 2.備える **災害備蓄物資の確保**
- 3.動ける **防災訓練・避難訓練の実施****地域や学校での防災教育**

市民の皆さんへ

1. 避難先を決める(家族で共有)
2. 水・トイレ・食を3日分
3. 近所で声をかけ合う準備

阪南市の災害

地理的特徴

自然環境：海と山に囲まれた自然豊かな地域。

海：大阪湾に面し、海岸線が広がる。

川：山間部から流れる河川。

山：内陸部は起伏に富んだ地形。

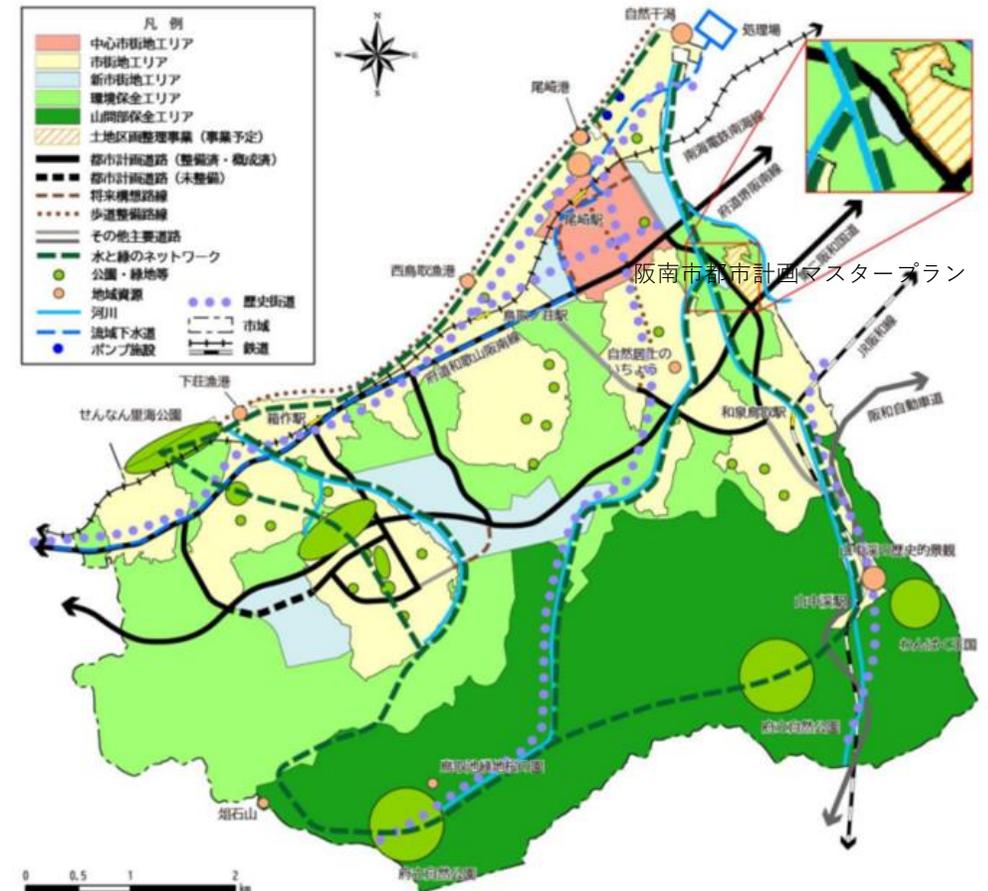
想定される災害

海：津波（3.7m）・高潮（3.0m）

川：河川の氾濫・洪水

山：土砂災害（S27水害 不明51人・15頭）

→常に自然災害と隣り合わせ



●大規模地震の想定（阪南市）

		中央構造線帯地震	南海トラフ地震
地震の規模		マグニチュード 7.7～8.1	マグニチュード 9.1
		計測震度 5 強～7	計測震度 5 弱～6 強
建物全半壊棟数	全壊（棟）	859	1697
	半壊（棟）	1183	4119
死者数	人	6	290
罹災者数	人	5779	10387
避難所生活者数	人	1676	6667

（建物全半壊件数4件に1件・避難所生活者数8人に1人） ※避難所キャパ 17,220人

南海トラフ地震

今後30年以内の発生確率「80%」→「60%～90%」（2025年9月）

「いつ起こるかわからない」

だからこそ「**明日起きても、家と家族は最悪助かる状態**」に近づけておく。そのために、「**今日できる一歩**」を決める

● 指定緊急避難場所・指定避難所

● 緊急一時避難場所とは

命の危険から一時的に避難するための場所

役割：命の危険があるとき一時的に逃げ込む場所

期間：発災～数時間

設備：屋内のスペース（体育館・集会室など）・**屋外で危険がない場所**

場所：学校・体育館・公園・広場など

● 指定避難所とは

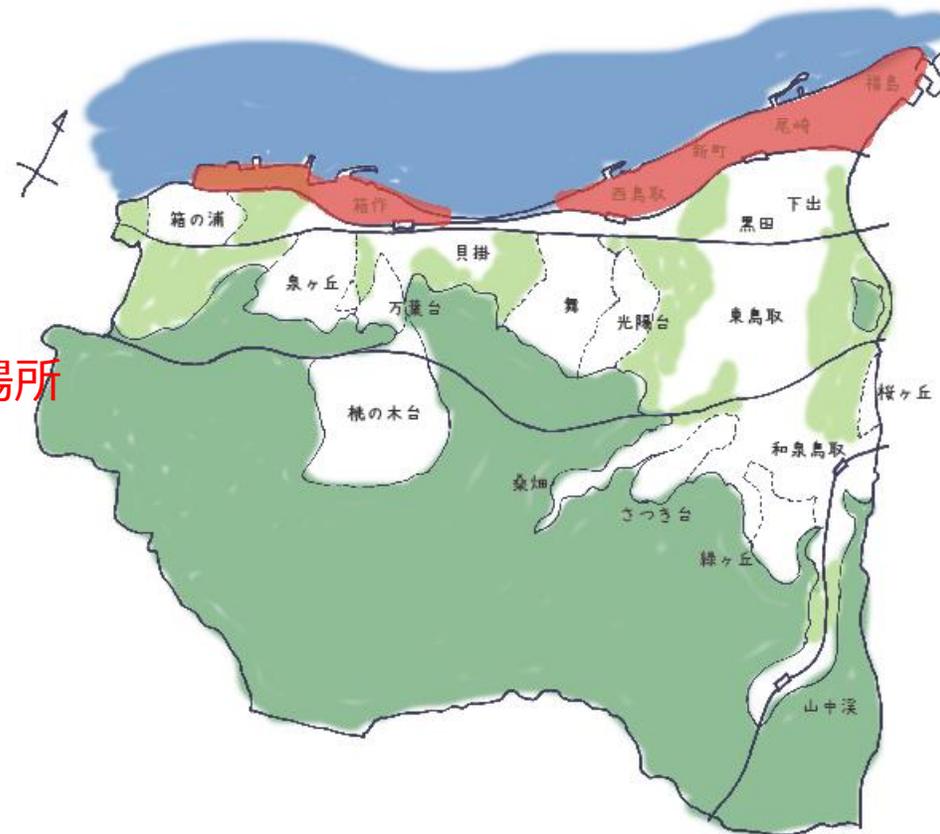
災害が発生した後、一定期間生活するための施設

役割：避難した人が「しばらく生活する場所」

期間：数日～数週間

設備：屋内のスペース（体育館・集会室など）

場所：学校・体育館・住民センターなど



**大きな揺れを感じた時、
南海電車より海側の方は
とにかく南海電車より山側に逃げる！**

●指定緊急避難場所・指定避難所

●指定緊急避難場所とは

施設名	収容可能面積(m ²)	収容可能人員(人)	NTT災害特設電話	阪南市半固定型無線機	海拔(約m)	種別	洪水	土砂災害	地震	津波	高潮	大火事	耐震
鳥取東中学校	6,544	1,630	3	○	42.5	◎	●	●	●	●	●	●	◎
貝掛中学校	8,155	2,030	3	○	46	◎	●	●	●	●	●	●	◎
飯の峯中学校	6,279	1,560	3	○	66.5	◎	●	●	●	●	●	●	◎
尾崎小学校	4,392	1,090	2	○	2.5	◎		●	●			●	◎
防災コミュニティセンター	85	20			9.3	緊	●	●	●	●	●	●	○
桃の木台中央公園(広域避難地)	43,000				76.5	緊	●	●	●	●	●	●	—
鳥取中学校(救援部隊拠点)			3		15.5	緊	●	●	●	●	●	●	◎

災害によって"行き先"が変わる。

自宅に合わせて、行き先を決めておくことが重要。

自助・共助・公助の役割分担

自助



自分の命は自分で守る

- * 災害時の連絡方法確認
- * マイタイムラインの作成
- * 耐震診断、家具転倒防止
- * 非常備蓄品・持出品等の準備
- * 情報収集



大阪防災アプリ

共助

まちの安全はみんなを守る

- * 情報収集・伝達(安否確認)
- * 防災講座・連絡会議
- * 机上訓練(クロスロート等)
- * 避難所運営訓練 など

公助

地域のバックアップ
インフラ整備を進める

- * 避難所の整備
- * ハザードマップの配布
- * 備蓄品の整備



●もしも大地震や豪雨災害が発生したら行政、市民、地域がそれぞれの役割を担うことが大切です。

●市民の役割（自助）

自分や自分の家族の命・生活を、自分たちの力で守ることに徹する
(災害直後は、行政がすぐには来られない可能性が高い)

備えがある家庭は、自分たちで何とかできる時間が伸びる（**家具の固定、家庭内備蓄、火の始末など**）

●地域の役割（共助）

近所・地域・職場・学校など、小さなコミュニティの中で、互いに助け合って命と生活を守る
(公助（市、消防、警察）が、全員のところに数分以内に駆け付けることは不可能)

近くにいる住民同士の共助が「命の空白時間」を埋めます。

●行政の役割(公助)

災害対策本部の早期立ち上げと避難所の開設（消防、警察、自衛隊との連携及び指定避難所の開設）
一時的にしのぐための物資の準備（食事、トイレ、ベッド、テント等）

いち早く災害に対応するために 阪南市の危機管理体制

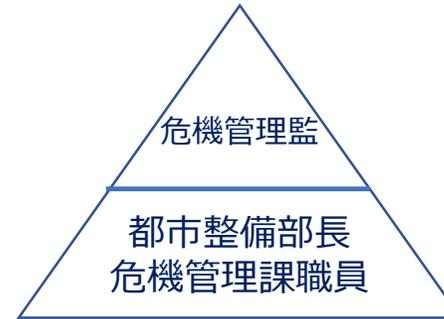
公助の取り組み

災害警戒本部・災害対策本部の設置

災害警戒本部

迅速な情報収集
災害の事前対策

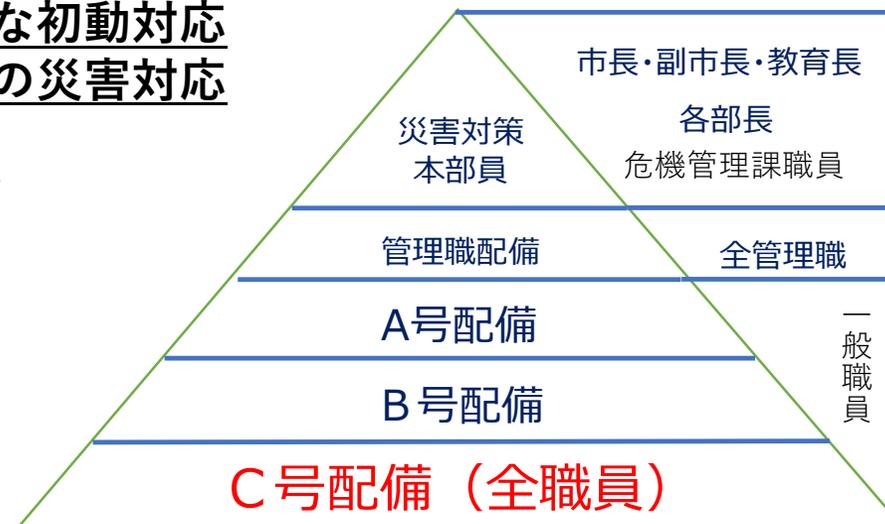
- ・ 気象警報（大雨・暴風など）
- ・ 津波注意報、高潮注意報
- ・ 震度4
- ・ 阪南市で震度 3
かつ近隣市で震度 4 以上



災害対策本部

迅速な初動対応
全力の災害対応

- ・ 大災害が見込まれるとき
- ・ 各災害規模に応じて
市職員を段階的に配備
- ・ 大地震大災害時は
全職員配備



台風・津波など

気象警報発令
災害警戒本部
設置・参集

災害対策本部
設置・参集

特別警報発令
避難指示発令

！！災害発生！！



災害対策本部会議

1. 本部長（市長）の命令で招集する。

2. 本部会議の内容

- ① 災害応急対策の基本方針に関する事
- ② 動員配備体制に関する事
- ③ 各部局間の連絡調整事項の指示に関する事
- ④ 自衛隊災害派遣要請に関する事
- ⑤ 現地災害対策本部に関する事
- ⑥ 国・大阪府及び防災関係機関との連絡調整に関する事
- ⑦ 災害救助法の適用申請に関する事
- ⑧ 関係機関への協力及び派遣要請に関する事
- ⑨ その他災害に関する重要な事項に関する事

災害に負けない地域をめざして ～令和7年度まで取り組みと今後の展望～

公助の取り組み

1. 地域防災計画に基づく取り組み

(1) 事前の備え (予防・準備)

(2) 災害時の応急対応 (避難・救助・情報伝達)

(3) 被災後の復旧・復興 (生活再建・まちの再生)

(1) 事前の備え（予防・準備）

<市役所補完施設の設置>

市役所が損壊した場合においても、継続して事業が行える「防災コミュニティセンター」を設置。（平成28年度）
7 2時間対応の自家発電設備・貯水槽により
停電、断水時においても事業継続が可能。災害対策本部を設置。

<ハザードマップの整備>

「阪南市総合防災マップ」として令和4年5月に全戸配布。
市ホームページにて、主要5ヶ国語版も掲載。

(1) 事前の備え (予防・準備)

<自主防災組織の結成>

市内自治会のうち、75.0%が結成 (45/60自治会)
共助を支える地域の防災力向上の後押し (設立補助金あり)

<防災教育・訓練の実施>

- ・各自主防災組織・自治会、小中学校などの教育機関へ防災講座を実施。
- ・地区内、学校内での防災訓練の実施の呼びかけ。
- ・毎年1月に市と地域が一体となる防災訓練を実施。

<防災施設・設備の整備>

- ・避難所である小中学校の耐震化・防災コミュニティセンターの設置
- ・重要備蓄物資の備蓄・防災アプリ整備

など

(1) 事前の備え (予防・準備)

重要備蓄物資の備蓄

品目名	保有数	目標量	保有率	
1 食糧	37,600 食	36,002 食	104%	
2 高齢食	2,900 食	1,800 食	161%	
3 毛布	6,670 枚	6,667 枚	100%	
4 ミルク	14,688 ml	14,561 ml	101%	
5 哺乳瓶	375 本	375 本	100%	
6 乳児・小児用おむつ	2,112 枚	2,000 枚	106%	
7 大人用おむつ	414 枚	400 枚	104%	
8 災害用トイレ (組立式等)	71 基	67 基	106%	
	洋式水洗組立式トイレ	49 基	49 基	100%
	凝固剤及び便袋 (簡易トイレ用)	146,250 個	100,005 個	146%
9 生理用品	2,150 枚	1,950 枚	110%	
10 トイレットペーパー	723,600 m	75,004 m	965%	
11 マスク	59,067 枚	10,001 枚	591%	

<重要備蓄品とは>

「命と生活を守るために最低限そろえておくべきもの」

- 全ての品目において**100%**整備
- 最低限の市民生活を保障
- 乳児や要配慮者の物資も整備
- 予算を確保し計画的に物資を更新

(大阪府重要物資備蓄方針・阪南市地域防災計画 重点11品目)

(1) 事前の備え (予防・準備)

備蓄倉庫 (まもる館等)



各避難所 (小中学校等)



【分散備蓄前】

備蓄倉庫 (まもる館等)



各避難所 (小中学校等)



【分散備蓄後】

備蓄品の分散備蓄

- 発災時インフラ等に関わらず、物資の使用が可能。
(特に食料・トイレ等)
- 備蓄スペースを確保
多様な備蓄が可能。
- 地域住民により近い位置での備蓄が可能。

- 分散備蓄を行うことで発災時、初動対応をより素早いものに。
- ハイブリッド型分散備蓄でより柔軟性のある災害対応を可能に。

(2) 災害時の応急対応（避難・救助・情報伝達）

○災害対策本部の設置・情報収集

市役所に災害対策本部を設置、被害・気象・ライフライン等の情報を集約対策を統一的に進める。

→大阪府下統一システムを利用し情報共有。府市一体となり公助を最適化。
災害対策本部の設置・情報伝達訓練。

○避難指示の発令と避難所運営

危険度に応じた避難情報（高齢者等避難・避難指示など）を発信
避難所を開設・運営し、避難者の安全と生活環境を確保。

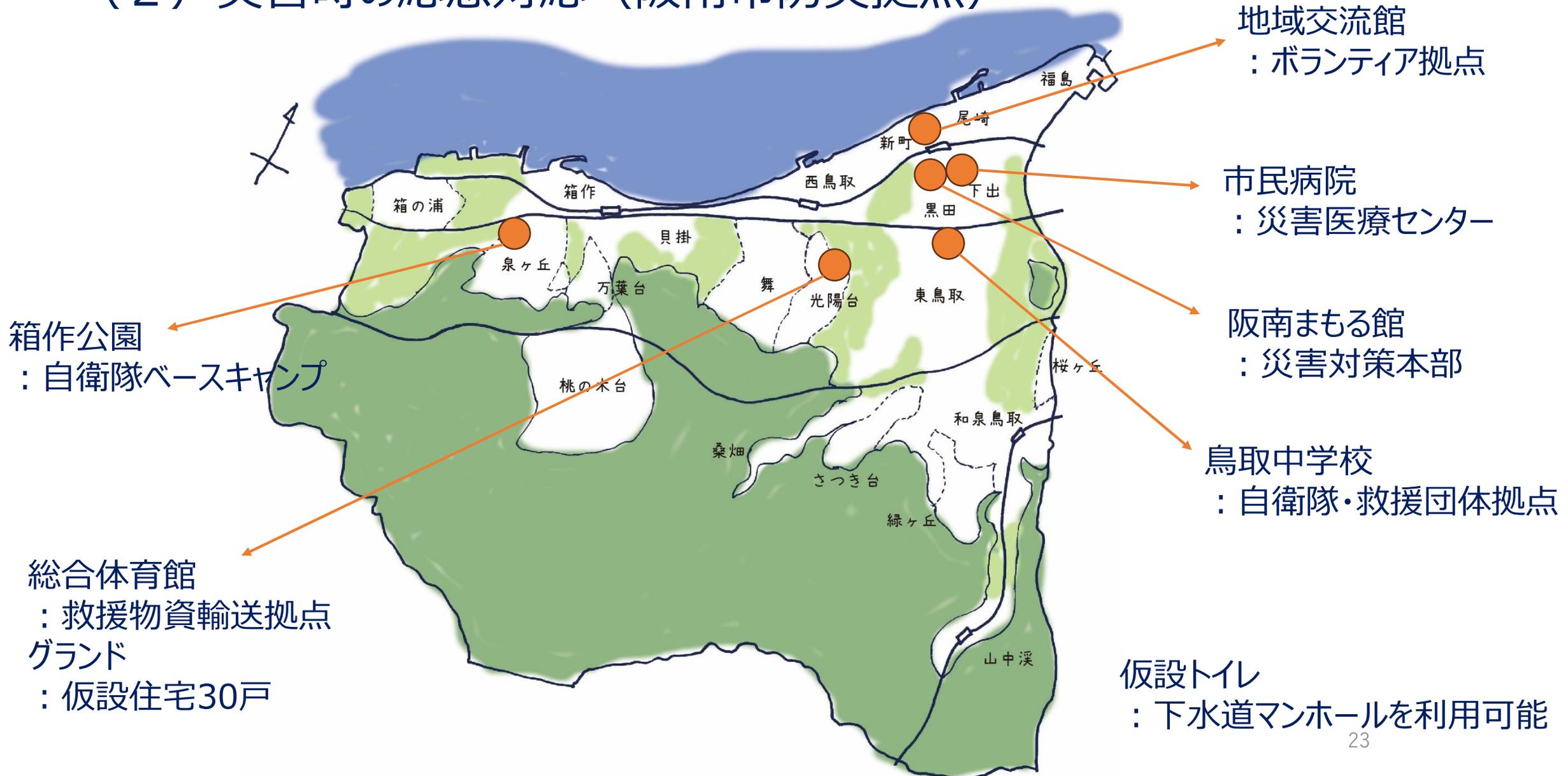
→早期情報発信のためLINE等の活用。
消防団や自主防災組織との連携により災害初動対応の高速化に取り組む。

○救助・救急・初期消火等の活動

消防・警察・自衛隊と連携し、救助活動・負傷者搬送・火災対応を行い、二次災害の防止に努める。

→2カ月に一度、関係機関との情報共有・連携を強化するため意見交換や訓練を実施。

(2) 災害時の応急対応 (阪南市防災拠点)



(3) 被災後の復旧・復興（生活再建・まちの再生）

○ライフライン・公共インフラの復旧

上下水道・電気・ガス・道路・橋・公共施設などの応急復旧および本格復旧を計画的に進める。

<災害時の応急対応のための協定>

発災時、応急・専門的な作業等を行うため、官・民連携し「災害協定」を締結。
目指す復興像 「より早く、より広く、より快適に」

地方公共団体・民間団体等：81件（R6年度+11件,R7年度+10件）
協定避難（場）所・福祉避難所：20件

○被災者の生活再建支援

- ・住宅の応急修理・仮設住宅の提供
- ・各種支援金・融資、り災証明書の発行
- ・相談窓口の設置など。

防災教育・出前講座の取組

地域・学校・市が連携した「命を守る学び」

小・中学校、地域等を対象に、「知る・考える・体験する」を大切にした防災授業・防災講座の出前講座を実施。地震や風水害などの災害を「自分ごと」として捉え、いざという時に行動できる力を身につけることができることを目的としています。



防災出前講座



VR体験



避難所運営体験



防災出前授業



阪南市総合防災訓練



大規模地震を想定した、地域住民参加型の防災訓練を実施。

- ・地震発生時の安全行動「シェイクアウト訓練」
- ・避難所開設訓練
- ・自衛隊による炊き出し訓練（豚汁）
- ・災害対策本部情報伝達訓練
- ・救出救助訓練×ドクターヘリ（阪南市消防団・泉州南広域消防本部）

災害備蓄物資の整備

食糧や災害用トイレなどの重要備蓄物資を、大阪府重要物資備蓄方針及び地域防災計画に基づき整備。



災害用トイレ
(ラップオン)

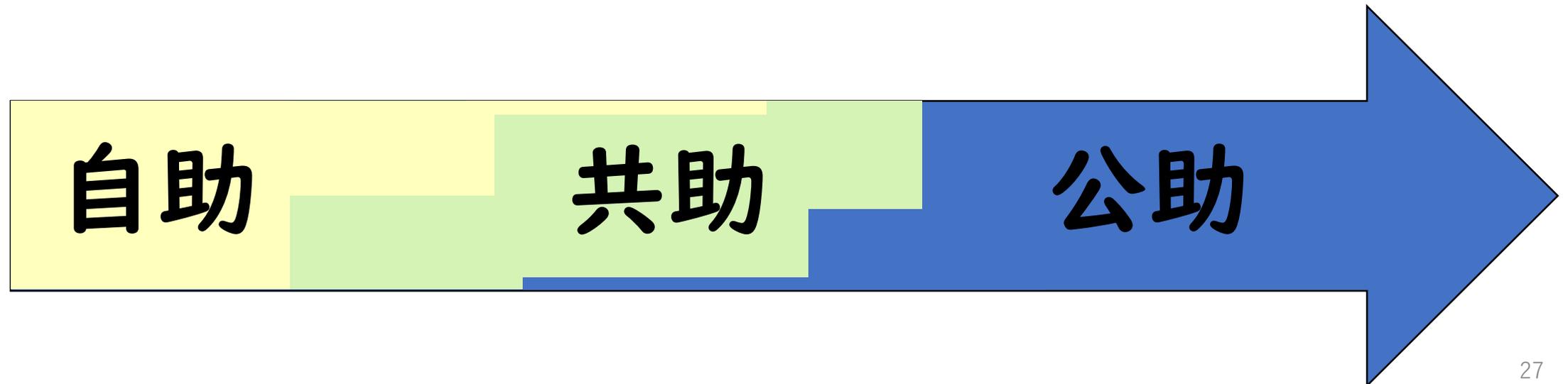


災害用トイレ
(ドントコイ)

まとめ

最も大切なことは**自助・共助**

- 公助はすぐには動けない
- 自助ができるほど、生存率と行動力が上がる
- 共助が“空白の時間”を埋めて命を守る
- 要配慮者は公助だけだと取り残される



最も大切なことは**自助・共助**

自助

知る

- 地域の災害を知る
- テレビ、公式LINEなどでの情報収集

備える

- 家具の固定や動線の確保
- 最低3日分の備蓄

動ける

- マイタイムラインの作成
- 近くの避難所への避難ルートの作成

共助

自助 命あつての共助

- 自助(自分と家族の命を守る)が最優先
- できる人が、できることを、できる範囲で

情報共有 本当に困っている人の共有

- 「どこ」で「なに」が起きているか
- 一人で抱え込まない

助け合い 声をかけられる関係

- 普段から声を掛け合える関係づくり
- 「大丈夫ですか?」「助けて」の一言

まとめ

自助



自分の命は自分で守る

- ・ 家の中の安全対策
- ・ 家庭備蓄を準備
(食水トイレ等)
- ・ 災害を知る

公助

- ・ 安心して避難できる設備を整える
- ・ 市民への情報発信
- ・ 少しでも早い発災対応

共助

まちの安全はみんなで守る

- ・ 互いに助け合って命と生活を守る
- ・ 自主防災組織で連携する



大阪防災アプリ



いのちを守る日頃の防災

なぜ防災が大切？

- ・ **南海トラフ巨大地震**など大きな災害の危険
- ・ 災害時、最初の数時間は"自分たち"が頼りです
- ・ **一人ひとりの行動**が**命を守るカギ**（**備えの差が、被害の差になる**）

阪南市の取り組み

- 1.知る ハザードマップの配布・周知・情報発信
- 2.備える **災害備蓄物資の確保**
- 3.動ける **防災訓練・避難訓練の実施****地域や学校での防災教育**

市民の皆さんへ

1. 避難先を決める(家族で共有)
2. 水・トイレ・食を3日分
3. 近所で声をかけ合う準備

その他の連絡

市役所の窓口受付時間が

令和8年9月1日(火)

から

9:00 ~ 16:30

に変わります



対象施設

- 市役所庁舎
- 市役所分館(都市整備部)
- 市役所分室(下水道課)
- 保健センター

※ 電話受付時間の変更はありません。

総務部 行財政構造改革推進室
電話：072-489-4504(直通)
E-mail：kaikaku-suisin@city.hannan.lg.jp



職員の働き方改革とデジタル化等に伴う効率化を進めることにより、多様な市民ニーズに対応できる体制づくりに取り組んでまいります。ご理解とご協力をお願いします。

カスタマーハラスメント対策

令和8年2月ガイドライン策定

職員は市民に寄り添い、正当なご意見・ご要望は丁寧に伺うことは大前提

暴言・脅迫・長時間拘束

社会通念上許容範囲こえるもの

対応マ
ニユア
ル整備

庁内
電話
録音

防止対
策委員
会設置



阪南市の重点支援交付金：

一人6,000円の地域振興券を市民全員に：3億4500万円

地域ポイント「はなポ」の強化：4200万円

第一次産業への補助金：総額1800万円

漁業経営継続支援補助金事業〔概算事業費：12,720千円〕

農業者支援補助金事業〔概算事業費：1,100千円〕

畜産農業者支援補助金事業〔概算事業費：4,125千円〕



ご清聴ありがとうございました



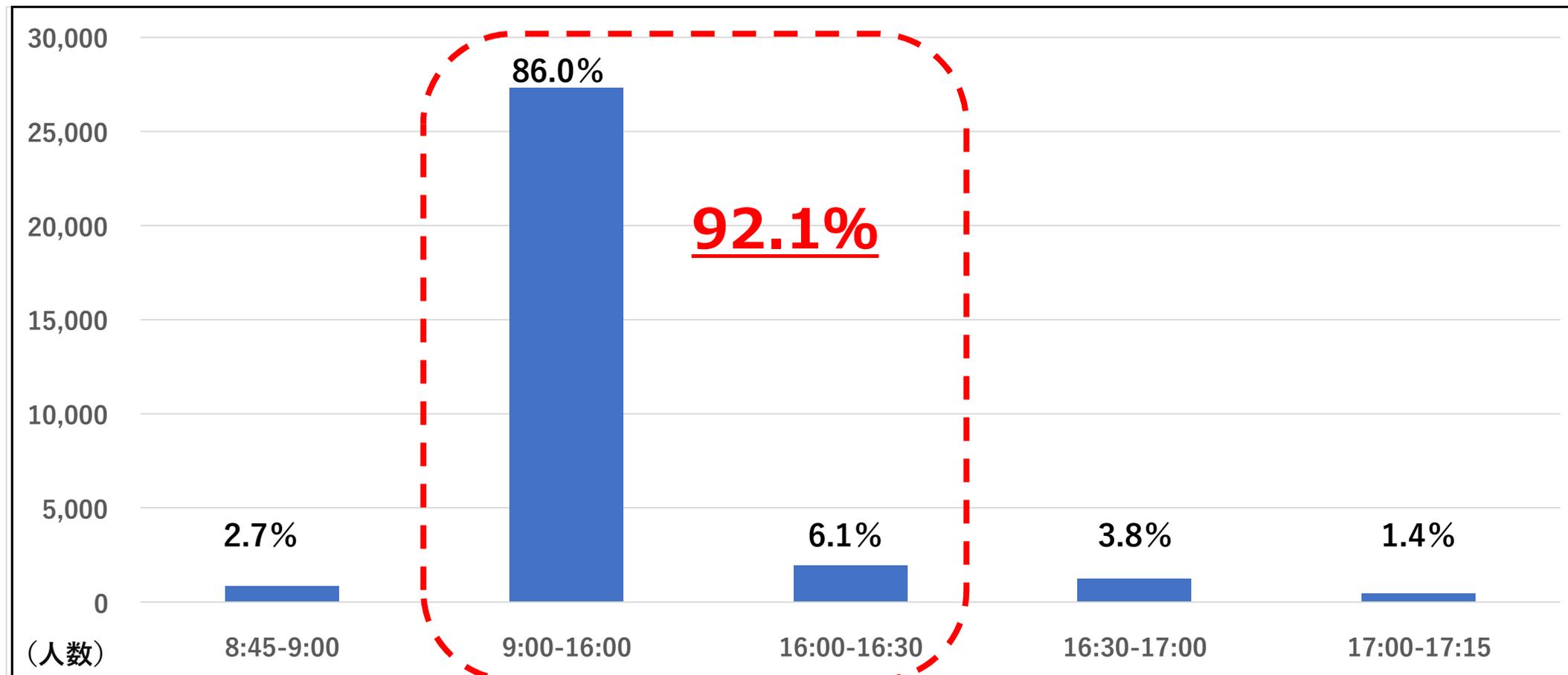
① 府内他市町の窓口短縮状況

近年全国的に窓口時間を短縮する自治体が増加してきており、府内の状況は以下のとおり。

自治体	短縮前	短縮後	実施時期
池田市	8時45分－17時15分	9時00分－17時00分	令和7年4月
交野市	9時00分－17時30分	9時00分－17時00分	令和7年9月
箕面市	8時45分－17時15分	9時00分－17時00分	令和7年10月
熊取町	9時00分－17時30分	9時00分－17時00分	令和8年4月
柏原市	8時45分－17時15分	9時00分－16時30分	令和8年4月
四条畷市	8時45分－17時15分	9時00分－16時30分	令和8年6月

② 現状の本市の業務処理状況（来庁者数）

■ 調査実施期間：R7年10月1日～R7年12月26日（3ヶ月）

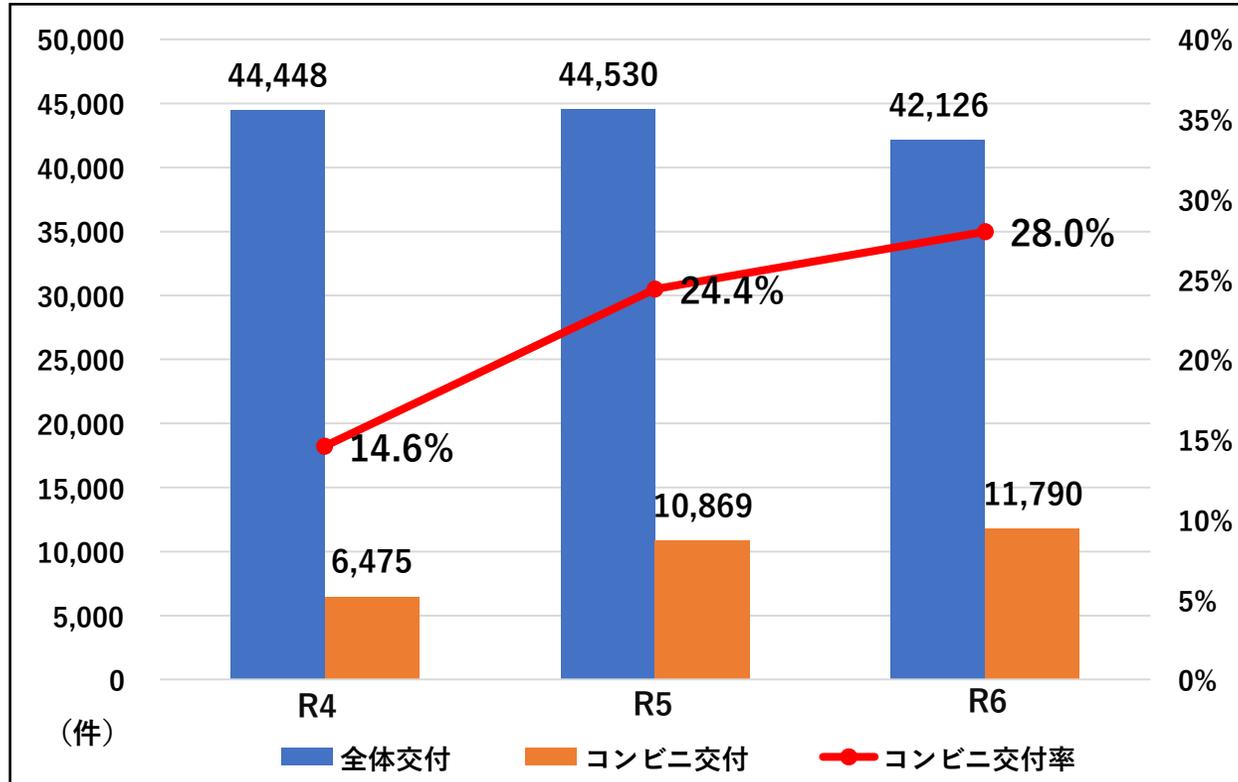


③ 市民サービス向上に向けたこれまでの取組

～証明書のコンビニ交付及び業務のオンライン化実施状況～

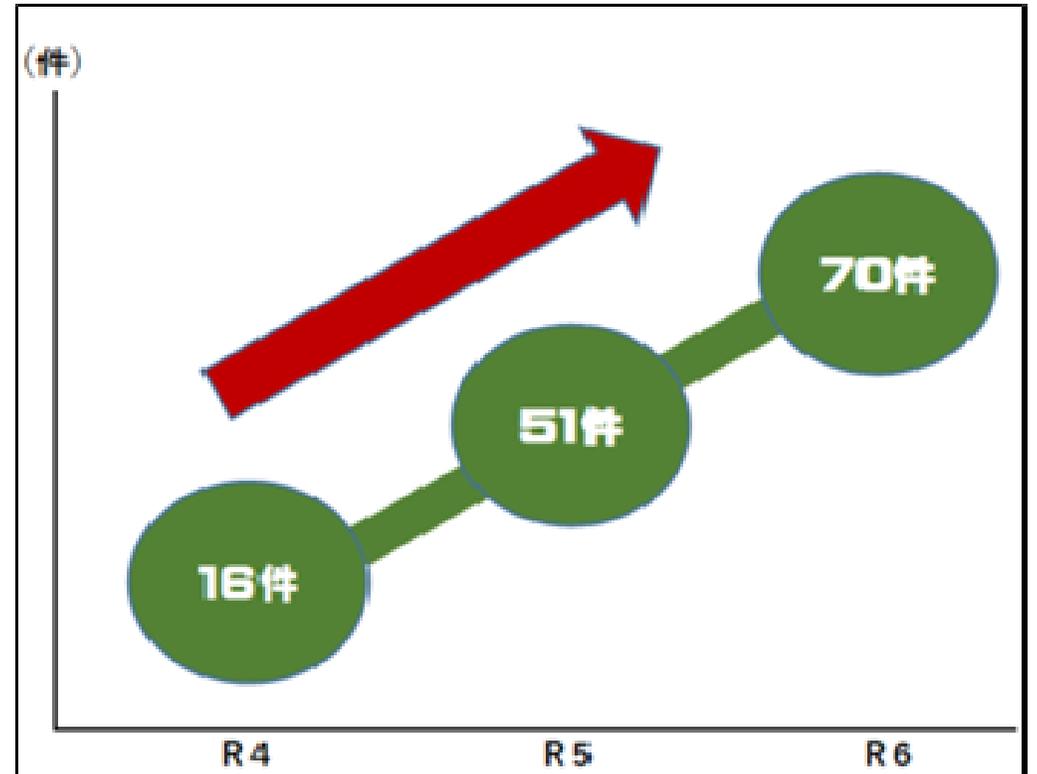


■各種証明書のコンビニ交付状況（R4～R6）



※ コンビニ交付率は、R4年度からの3年間で**約2倍に増加**
(6,475件→11,790件)

■業務のオンライン化実施状況（R4～R6）



※ R4年度からの3年間で**約4.4倍に増加**